

Activities of the Shizuoka Prefectural Design Center, 1990-2001

静岡県デザインセンターは、県内産業のデザイン振興の総合的な展開を図るべく、1990年4月、静岡県により設置された機関である。同センターは2001年3月をもって廃止されたが、その間は静岡県におけるデザイン振興の中核的役割を担ってきた。本稿では、11年間の事業展開の概略整理及び若干の考察を行った。同センターでは、専有の展示スペースを備えるという特色を有し、展示プロモーション事業を中心に、デザインに関する普及・啓発、相談・指導、研修等の諸事業が展開されてきた。また、県行政の中では、ユニバーサルデザインに関するテーマ開発の役割を果たしてきたといえる。なお、本稿は静岡県におけるデザイン振興に関する総合的研究の導入に位置するものである。引き続き静岡県における戦後のデザイン振興の

黒田 宏治

デザイン学部生産造形学科

Kohji KURODA

Faculty of Design

Department of Industrial

Design

1. はじめに

わが国のデザイン振興行政は、第二次世界大戦後の経済復興に取り組まれるなか、国主導の輸出向け雑貨や工芸品のデザイン改善、デザイン盗用の防止にはじまるが、高度経済成長期を経て、輸出品の枠を越えての地場産業振興をはじめ、多様な地域ニーズへの対応へと軸足を移してきた。「地方の時代」と言われはじめたのは1970年代末のことだが、80年代には円高が急速に進行するなかで、国の産業政策の方向は輸出振興から内需拡大へと転換され、各地域においては産業構造転換に向けた新たな産業基盤の形成が求められるようになった。

そうしたなか、地域における広範なデザイン活動を促進するために、総合的なデザイン振興の拠点となるデザインセンター設立に向けての検討が、各地域で相前後して始まった。その結果、すでに大都市圏においては、大阪府、大阪市などにより設置された大阪デザインセンター（60年設立）や愛知県デザインセンター（63年設立）などの先例も見受けられたが、地方圏にあっては、84年に石川県デザインセンターが設立されたのが一つの契機となり、以降89年のデザインイヤーに前後するかたちで、富山県、山梨県、旭川市はじめ10以上の地域において、それぞれの地域特性に即した内容・規模、設置形態の様々なデザインセンターが設置されていった¹⁾。

静岡県においても、デザイン振興については久しく県工業試験場の工芸部門が主要な役割を担ってきたが、約5年間の懐妊期間を経て、デザインイヤーの翌年である90年4月、静岡市内中心部に展示スペース、CADシステム、ライブラリーなどを備えた静岡県デザインセンターが設置されるに至る。以来、県内の企業や生活者、デザイナーなどを対象に、普及啓発や人材育成、情報提供などを目的としたデザイン振興諸事業は、静岡県デザインセンターが中心となり展開されてきた。

そして、設立から10年余を経た2001年3月に、静岡県の機構改革に伴って、静岡県デザインセンターは前触れも少なく廃止されるに至る。設置の際に目指された県内企業等へのデザインの普及・啓発などに関しては、

10年余の様々な振興事業の展開を通じて一定の成果を収めつつあったものとも考えられるが、その間の社会経済環境の変化に伴い新産業創出等に向けてデザインの新たな役割への期待も高まるなか、デザイン振興拠点の消失によるマイナス面の影響は懸念されるところである。

そのため、社会経済環境の変化動向を踏まえ、静岡県における新たなデザイン振興体制構築に向けた検討や行動の速やかな推進が期待されるところであるが、再構築に際して実効性をより高いものとしていくためには、今日に至るデザイン振興行政のレビューを行っておく必要性は高い。そこで、本稿では、そのような検討に資するべく、まずは10年余の活動展開の足跡²⁾をたどりながら、静岡県デザインセンターの特色や意義について、若干の考察を加えたい。

2. デザインセンターの概要

静岡県デザインセンター事業化に向けての出発点は、80年代前半にさかのぼる。当時エレクトロニクス、新素材などの先端技術産業が脚光を浴びるなか、静岡県においては先端技術産業育成に向けた施策展開が積極的に図られたが、その一方で83年に地場産業の生産技術高度化への取り組みにも着手された。そして、その検討の過程で生産技術だけでなく、高付加価値製品の企画、開発、設計などデザイン技術の重要性も大きく浮上したため、地場産業デザイン技術高度化研究委員会（委員長：山崎充）が84年7月に設置され、その高度化促進に向けた方策等の調査検討がスタートした。

同委員会は、県内企業におけるデザイン問題の実態調査等も踏まえ、84年12月には高度化促進事業の内容、デザイン振興体制の確立などを中心とした提言をとりまとめ、静岡県に提出した³⁾。その中には行政組織としてのデザインセンター設置に関する言及も含まれていた。提言の概要は次の通りである。

□地場産業デザイン技術高度化促進に関する提言（概要）

1. デザイン分野の考え方

- a. 高付加価値製品化のためのデザイン

歴史、今後のデザイン振興のあり方に関する研究を行っていく予定である。

- b. 販売戦略のためのデザイン
- c. 企業イメージを高めるためのデザイン
- 2. 関係するセクター
 - a. 企業
 - b. デザイナー
 - c. 消費者・流通団体
 - d. 業界・商工団体
 - e. 行政
- 3. 考えられる事業の内容
 - a. 普及・啓発機能（窓口相談、講演会、デザインアドバイザー派遣等）
 - b. 人材育成機能（デザインマネージメントセミナー、デザイン実務者研修等）
 - c. 情報収集提供機能（デザインライブラリー、デザイナーバンク等）
 - d. 改善・開発機能（デザインコンペ、グッドデザイン奨励等）
 - e. 展示プロモーション機能（各種デザイン展、国際交流事業等）
 - f. 交流機能（交流フォーラム等）
 - g. 先端機器利用促進機能（機器類共同利用システム等）

4. 推進組織の考え方

- a. 全県的なデザイン振興組織の設置
 - b. デザインセンター的行政組織の設置
- 静岡県においては、同提言を踏まえ、新たな施設整備を待たずに着手できるところから順次実現を図るかたちとし、翌85年度には静岡県事業としてデザインアドバイザー派遣制度、県内デザイナー情報を集めたデザイナーバンクをスタートし、県試験場ではデザインライブラリー整備に着手した。また、86年4月には、県内の地場産業団体、企業、デザイナーの参加する全県的広がりをもつ静岡県デザイン振興会が発足し、情報誌発行、デザインセミナー開催などの事業の順次具体化が図られるとともに、振興会の場を通してデザインセンター具体化への広範な議論も展開されてきた⁴⁾。

そして、提言より5年余を経た90年4月、旧静岡県中小企業会館跡地に新たに建設された静岡県産業経済会館内に、静岡県デザインセンターが開設された。正式には静岡県中小企業総合指導センターの一部門としてのデザインセンターであり、静岡県デザインセンターとは通称名であった。センター長には

県工業試験場意匠課勤務の経験をもつデザイナー、鴨志田厚子が招聘され、以下専任職員4名の体制でスタートした。静岡県デザインセンターの概要は次の通りである。

□静岡県デザインセンターの概要

- ・名称：静岡県中小企業総合指導センター・デザインセンター
- ・所在地：静岡市追手町44-1 静岡県産業経済会館 1F・2F
- ・開設日：1990年4月1日
- ・組織構成：センター長（非常勤）鴨志田厚子／職員（常勤）4名
- ・施設構成：1F 290㎡（展示コーナー）
2F 546㎡（事務室、資料室、CADスタジオ等）
- ・事業内容：
 - a. 普及啓発（展示プロモーション、優良デザイン選定等）
 - b. 技術指導（窓口相談、カウンセラー派遣等）
 - c. 人材育成（実務者研修、先端機器開放等）
 - d. 情報発信（デザイン情報誌、ライブラリー等）
 - e. 研究開発

全国各地域に、デザイン振興へのアプローチなどの違いにより様々なタイプの地域デザイン拠点が存在するが、静岡県デザインセンターは、地場産業振興の一環としての事業化であり、また独自に展示スペースを有するという施設面での特色も備えていることから、工業アプローチのファシリティ型とコンサル・コーディネート型を併せ持ったタイプであると考えられることができる⁵⁾。

3. デザイン振興事業の展開

県内産業におけるデザイン技術の高度化、デザイン意識の啓発を主たる目的として事業化が図られた静岡県デザインセンターでは、専有の展示スペースを活用するかたちで、普及啓発を目指した事業、なかでも展示プロモーションに重きが置かれてきた。

The Shizuoka Prefectural Design Center was the organization established by Shizuoka Prefecture in April, 1990, to intend the overall development of design promotion of inside prefecture industry. The Center had played the role of the nucleus of design promotion in Shizuoka Prefecture meantime, although it was abolished in March, 2001. This paper did the outline tidying and also a little study with regard to each activities for 11 years of the Center. Having the characteristic that kept exhibition spaces in the Center, each activity of the diffusion/enlightenment, consultation/guidance, training etc. regarding design had been developed centering around exhibition promotion activities. Also, the role of the theme development regarding universal design

【表1】静岡県デザインセンターの主な事業の推移

年度	事業費	情報誌	相談紹介	展示開催	備考
H 2 (90)	—	1	241	14 (17,014) *1	デザインセンター開設 (4月)
H 3 (91)	—	1	148	14 (40,681)	
H 4 (92)	70,870	6	254	31 (113,593)	JAGDA有志マラソン展 (11回)
H 5 (93)	72,940	6	304	18 (48,935)	全国デザイン会議in静岡 *2
H 6 (94)	76,316	6	364	21 (50,217)	国際デザインワークショップⅠ
H 7 (95)	81,060	6	375	25 (36,650)	国際デザインワークショップⅡ
H 8 (96)	59,708	6	551	20 (37,756)	デザインカウンセラー派遣スタート
H 9 (97)	63,336	4	473	20 (21,500)	
H10 (98)	74,496	4	467	21 (21,670)	
H11 (99)	74,671	4	481	20 (21,850)	県ユニバーサルデザイン室発足
H12 (00)	74,026	1	501	18 (17,854)	デザインセンター廃止 (3月)

*資料：静岡県中小企業総合指導センター年報（各年版）より作成した。

*注：各欄の単位は次の通り。事業費は千円、情報誌はDEWS年間発刊回数、相談紹介は技術相談・指導及び訪問・派遣の合計件数、展示開催は年間開催数、()内は延見学者数。

* (*1) H2 (90) 年度については () 内の見学者数は4回開催の生活提案展示についての合計。

* (*2) H5 (93) 年に静岡さいこうデザイン（優良デザイン選定事業）がスタートした。

【表2】静岡県デザインセンターの展示プロモーション事業（93年度）

区分	展示テーマ	期間
生活提案展示	01 福祉機器等研究開発事業成果発表展示	93. 8. 7～29
	02 夢舞台東海道道標展	93. 9. 2～26
	03 リ・サイクル展	93.12. 3～18
	04 まちづくり～デザインを視点に考える	94. 1. 5～15
地域産業紹介展示	05 静岡県観光と物産写真展	93. 4. 2～25
	06 雑具・地域資源活用型起業化事業成果発表展示	93. 4.27～ 5.23
	07 お祭りあんどん展	93.10. 1～31
	08 あんなものこんなもの印刷展	94. 2. 1～13
	09 静岡さいこうデザイン展	94. 2. 8～25
	10 ゆかた柄デザイン画コンクール	94. 3. 1～13
デザイン企画展示	11 平成4年度通産省選定グッドデザイン商品展	93. 6.10～ 7.30
	12 静岡デザインクラブ展示	93.10. 1～31
	13 クリエーター7人衆お仕事成果展Ⅱ	93.10.13～29
	14 みちのく仙台クラフト12人展	93.11. 3～14
	15 WOOD ART INTERIOR展	93.11.25～12. 1
	16 環境ポスターパフォーマンス	93.12.21～26
	17 デザイナーバンク企画展	94. 1.18～ 2.27
	18 山形デザインアトラス／暮らしの創造展	94. 3.15～30

*資料：静岡県中小企業総合指導センター年報（平成5年度）より作成した。

開設初年度より、自主企画である生活提案展示をコアに、県内産業紹介展示、県内デザイナー作品展示、全国巡回デザイン展示、他地域との交流展示などが、一年間を通じて様々に実施されてきた。生活提案展示では、県内各所を取材し、それを基にして、時代のキー

ワードをテーマに、若手デザイナーの感性を生かした展示を行うとの位置づけでスタートし、地場産業の可能性探求、あるいはリサイクル、防災、バリアフリーといった社会性あるテーマに則ったデザイン展示が繰り返されてきた。

had been played in prefecture administration.

初年度である90年度には年間で14件、以来おおむね20件の展示プロモーション事業が毎年展開されてきた。一例として93年度には〔表2〕に示されるよう18件の展示プロモーション事業が実施されている。年間の見学者数は、まとまったデータのあるのは91年度からになるが、91年度には40,681人、94年度の50,217人までは毎年増加を続けたが、同年をピークに以降は減少に転じ、97年度以降は年間で21,000～22,000人程度で横這いである。尚、92年度に関しては、展示スペースを分割して8カ月にわたり延11回の県内デザイナーによる連続展覧会が開催されたため、件数、見学者数とも例年を大幅に上回る結果となったものと察せられるため、前述の見学者数増減の比較検討の対象からは外してある。

普及啓発事業には、一連の展示プロモーションに並んで優良デザイン選定がある。93年に静岡さいこうデザインの名称でスタートし、初回には74点の応募があり16点が選定されている。因みに大賞はシンプルな木製ダストボックス(株)サイトウッドが受賞した。以降、毎年50点前後の応募に対して20点程度の選定がなされてきた。98年よりモノづくりデザイン静岡に衣替えとなったが、近年は応募の点数・水準ともやや低調といわれている⁶⁾。なお、大賞については、初期には木工家具製品の受賞が続いたが、最近ではクラフト製品の受賞が目立つ。

県内産業へのデザインの普及啓発より一歩踏み込んだ技術指導事業としては、センターへの来所または電話等による各種デザイン相談、訪問・派遣による助言・指導などが行われてきた。静岡県デザインセンターの開設当初には、企業関係者の訪問等にセンター職員が応ずるケースが中心であり、90年代半ばまでは年間200～300件台で増加傾向にあった。相談件数としては96年に551件で最高となるが、センターの認知度の向上に加え、前年よりセンター職員の訪問相談が大きく増加していること、96年より民間デザイナーを派遣するデザインカウンセラー制度がスタートしたことなど、より積極的な相談対応の導入が少なからず寄与しているものと思われる。

以降、経済的にはデザイン投資が手控えられよう環境にあって、相談件数についてはピークは下回るものの400件台後半にとどまっている。また、相談内容に関しては、企業関係からはデザイナー紹介、CAD等の技術相談、カウンセラー派遣など、ある程度焦点が絞られての相談が多いように見受けられるが、その意味でセンター設立以来の諸活動を通じて、県内産業へのデザインの基本的な理解・普及の推進が図られてきたものとも考えられる⁷⁾。一方、行政関係からの相談では、その他相談、すなわち漠然とした相談の比率がなお高いものと察せられる。

人材育成の分野では、開設当初より情報化対応が中心に展開されてきた。90～92年度の3年連続のCAD研修、95～97年にはマルチメディア関連をテーマとしたデザイン塾が、やはり3年連続で開講されている。そして、99年度及び2000年度にはユニバーサルデザインをテーマにした連続講座が開催されている。また、開設当初より、CAD等先端機器の開放利用も行われてきたが、94年度までは年間でおおむね100件を下回る水準で推移してきたが、95年には対前年比3倍増の174件となり、以降年間200件前後の利用件数で推移している。

情報発信に関しては、主な事業としてセンター開設以来発行が継続されたデザイン情報誌DEWSがあげられる。同誌は90・91年度には年間事業報告のような性格で年1回の発行であったが、92年には年6回(各号3000部)と情報誌としての性格を強め、96年度まではその体制で発行が続けられた。ところが、97年度には年4号(各号2000部)と事業縮小され、99年度まではその規模で発行が継続されたが、2000年度には終刊号のみが発行され、センター廃止に伴い廃刊となった。なお、96年7月からはホームページでの各種情報提供も併せて行われてきた。

これら以外に実施された主な事業としては、開設初年度の記念フォーラム(記念講演:栄久庵憲司)、92年度にはデザインウィークの中核事業としてのさいこうデザインフォーラム、翌93年度には全国デザイン会議の開催があげられる。また、旧県試験場のデザイン部門より業務が移管されてきた部分もあるた

め、CADシステムやバリアフリー家具開発をはじめとした研究開発事業にも取り組まれてきた。一方、静岡県の機関ゆえに、県ないし県内市町村関係のデザイン審査への職員派遣、県庁内他部局における印刷物デザインなどの要請も少なくなく、それら業務にも携わってきたことを付け加えておきたい。

4. 事業テーマの変遷

静岡県デザインセンターにおいて展開されてきたデザイン振興諸事業のテーマ内容の推移も見ておきたい。展示プロモーションの中心的事業にセンター独自企画による生活提案展示のシリーズがあり、その内容が静岡県デザインセンターのテーマ性に深く関連すると思われるが、そのテーマの変遷は〔表3〕の通りである。

初年度及び2年目には、「つつむ」ファッションライフ、「美と菓子の器」グルメライフ、あるいは現在の舞台・茶室「W・ABI S・ABI」、冬・寝「Neo Sleep Life」などのテーマで、複数の業種製品の組み合わせによるライフスタイル提案が行われるなど、主に県内地場産業に立脚しつつ、その再構成や新展開の可能性を試行するような内容で展開されてきた。それに対して3年目(92年度)以降では、リサイクル、防災、福祉、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど、必ずしも県内産業に限っての課題ではなく、主に時代が直面する社会テーマを掲げ、最新の情報・動向、県内産業等の紹介、オリジナル提案などが展示されてきた。

なかでも、年次ないし時代環境により用語使用が異なり、多少のニュアンスの違いはあるにせよ、福祉、バリアフリー、ユニバーサルデザインなどのキーワードで括られるテーマ領域に関しては、静岡県デザインセンターにおいて92年度より一貫して取り組まれてきた。94年度には「福祉」、95年度には「バリアフリーと生活環境」が生活提案展示の年間テーマに掲げられていたことも、付け加えておいていただろう。

ここで、これらユニバーサルデザイン関連の国内の主な動向を振り返るならば、E&Cプロジェクトの結成が91年(99年から(財)共

〔表3〕静岡県デザインセンター・生活提案展示の内容

年度	展示テーマ
H 2(90)	01「つつむ」ファッションライフ 02「遊路」余暇ライフ 03 シルバーライフをおしゃれしませんか? 04「美と菓子の器」グルメライフ
H 3(91)	01 春・住 茶室「W・ABI S・ABI」 02 夏・遊 「時空間」ゆとりズム 03 秋・贈 「ココロ・ギフト」 04 冬・寝 「Neo Sleep Life」
H 4(92)	01 ウォーキング静岡シミュレーション 02 リメイクング・シズオカ・シミュレーション 03 RECYCLE SHIZUOKA「ごみとりサイクル展」 04 福祉機器とデザイン
H 5(93)	01 福祉機器等研究開発事業成果発表会 02 夢舞台東海道道標展 03 リ・サイクル展 04 まちづくり～デザインを視点に考える
H 6(94)	01 バリアフリーのデザイン展 02 北欧の生活補助具 03 地域産業と健康/リラクゼーション展 04 福祉の街づくりを考える展 *年間テーマ「福祉」
H 7(95)	01 歩きやすい街造りを考える 02 使いやすい生活用品の提案 03 バリアフリークリエーション95 04 歩く/ライフワークデザインを考える *年間テーマ「バリアフリーと生活環境」
H 8(96)	01 静岡の祭りとデザイン 02 身体に優しいデザイン/再生品や資源の有効利用 03 バリアフリークリエーション96
H 9(97)	01 素足感覚のファッション展 02 バリアフリークリエーション97
H10(98)	01 県内産業の新作生活支援品(福祉・防災) 02 バリアフリークリエーション98 03 ユニバーサルデザインとものづくり
H11(99)	01 防災グッズ・災害支援品展 02 共用品・共用サービス展1999 03 ユニバーサルデザインとモノづくり
H12(90)	01 防災グッズ・災害支援品展 02 バリアフリークリエーション2000 03 ユニバーサルデザインとモノづくり

*資料：静岡県デザインセンター情報誌 DEWS 各号より作成した。

用品推進機構)、ハートビル法(高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律)の施行が94年、日用品・共用サービスの産業化をリードした通商産業省の福祉用具産業懇談会の設置が96年、Gマーク(グッドデザイン商品選定事業)にユニバーサルデザイン賞が設けられたのが97年である⁹⁾。それらに一步先んじるかたちで静岡県デザインセンターにて取り組みがなされていたことは注目しておいてよい。

また、静岡県では99年4月、企画部にユニバーサルデザイン室が設置され、全国自治体のなかで当該分野に関して先頭をきるように諸施策が展開されているが、それらは静岡県デザインセンターにおけるユニバーサルデザイン関連の一連の取り組みに連なるものであるといつてよい。その意味で、静岡県においては、静岡県デザインセンターは次世代政策テーマの発掘、そして基礎固めに中心的役割を果たしてきたといえる。

なお、静岡県デザインセンターでは、生活提案展示を追いかけるかたちで、94年度からは衣料分野で、96年度からは家具分野におけるユニバーサルデザイン関連の研究開発にも着手されている。また、人材育成に関しても、センター開設以来一貫して情報化関連の研修セミナーが中心であったが、99年度、2000年度には各々5回連続、8回連続と、まとまったかたちでのユニバーサルデザインの講座が実施された。これらの諸事業も、静岡県内のユニバーサルデザイン文化醸成に少なからず寄与したものと察せられる。

ただ一方で、次世代テーマ開発の観点からは、近年になって他テーマ領域での事業展開が著しく縮小してきたという一面も、静岡県デザインセンターの事業規模等を勘案しやむを得ない面があると考えられるが、同センターの評価に際しては加味しないわけにはいかないだろう。

5. おわりに

静岡県デザインセンターが廃止されて半年余りが経過した。センターにて展開されてきたデザイン振興諸事業は、主に県商工労働部地域産業室で普及啓発関連、静岡工業技術セ

ンターでは研究開発など、そして財団法人しずおか産業創造機構においては相談・情報業務など、機能毎にそれぞれ引き継がれているが、特に専用の展示スペースの喪失により展示プロモーション事業について連続的開催が途絶えたこともあり、縮小された感は否めない。県内産業の活性化、再構築に向けデザインの新たな役割への期待も高まるなか、デザイン振興事業の現状そして今後の展開には懸念されるところである。

そうしたなか、県地域産業室、静岡工業技術センター、浜松工業技術センター、財団法人しずおか産業創造機構、静岡県デザイン振興会、静岡文化芸術大学デザイン学部の関係者の間で、新たなネットワーク型のデザイン振興体制の構築に向けての検討が始まっている。それぞれ設置の趣旨・形態等の異なる組織にまたがっての検討であり、具体的な行動着手までにはしばし時間を要するものと思われるが、今後の展開が待たれるところである。

さて、本稿は、今日に至る静岡県におけるデザイン振興のレビューを行うとともに、新たなデザイン振興のあり方についての検討に向けてスタートした研究の導入部に位置するものである。静岡県においては、デザイン振興行政の主たる担い手が時期によりいくつかの組織にまたがってきた経緯から、関係資料の集約が図られておらず、まずは関係資料の収集・発掘に着手したが、その後に静岡県デザインセンターの廃止が明らかになったため、取り急ぎセンター関係の資料収集および事業展開の概略整理を行うこととした。引き続き、静岡県デザインセンターの諸活動に関する評価・考察、センターの設立以前のデザイン振興の展開等に関する研究を行っていく予定である。

なお、本研究は平成12年度デザイン学部長特別研究費を得て実施されたものであり、また財団法人静岡総合研究機構より助成をいただいた。研究の実施にあたっては、静岡県デザインセンター長でもある鴨志田厚子本学生産造形学科長には静岡県におけるデザイン振興の基本的な流れ、研究の着眼点について示唆をいただくとともに、特に静岡県におけるデザイン振興関係資料の収集に際しては静岡県デザインセンター川合和彦専門監に多大

なるご助力をいただいた（所属・役職は平成12年度当時）。この場を借りてお礼を申し上げます。

参考文献

- 1) 財団法人日本産業デザイン振興会『平成3年度新産業社会基盤施設整備基本調査報告書』1992年3月
- 2) 静岡県資料（デザイン振興施策の概要、静岡県デザインセンター情報誌 DEWS）を基礎資料として参照した。
- 3) 静岡県地場産業デザイン技術高度化促進研究委員会『地場産業デザイン技術高度化促進に関する提言』1984年12月
- 4) 「POINT創刊号（1986.9）」（静岡県デザイン振興会発行）ほか（各号）
- 5) 財団法人機械振興協会・経済研究所『デザイン振興に関する調査研究－地域デザインセンター設立の策定－』1994年4月
- 6) ものづくりデザイン静岡2001 審査評（鴨志田厚子ほか）など
- 7) 『静岡県中小企業総合指導センター年報』平成2年度～11年度
- 8) E&Cプロジェクト・財団法人共用品推進機構『共用品白書'99』1999年4月、財団法人産業研究所『ユニバーサルデザインに関する調査研究』2000年2月など